



白聖はくあ 第5号 令和4年10月19日発行



【大学とはどのような場所か】

大学とは研究機関です。研究とは、探究を重ねながら最先端を見つけること。つまり学問の力で既知の領域を広げることです。言い換えると、世の中で分かっていないこと、解き明かされていないこと（課題設定）を学問の力で解き明かしていく場所です。

最初は調べて答えを出すことを繰り返し（情報収集・調査・実験）、わかることとわからないことの仕分けを重ね（検証・整理・分析）、最終的に知の最先端に到着する（まとめ・表現）。このように、学問の積み重ねをもとに既知の領域を広げていこうとするのが、研究をする人の立場となります。

「研究機関である大学はどのような人を求めているのか」

大切な資質は「学力」です。確かな「学力」を有した上で、研究テーマを持っていて、そのテーマをしっかりと語れる人が大学に期待される人物です。

つまり、「自分は●●という分野に興味があり、その中で〇〇がわかっていないので、このわかっていない領域を学問の力で切り拓きたい！」と考える人が求められます。これらの肝となってくることが「自己と学問との接続」であり、その**基礎・土台となるのが高校生活における日々の授業**になります。

「大学での計画を立てる」

①なぜその学部・学科を選んだのか

（学部・学科の選択理由）

②なぜその大学を選んだのか

（大学の選択理由）



①②を踏まえて、大学で何を学び、どのような問いを解き明かしたいのかを考えてみましょう。この問いはあなた自身が生きてきた足跡に由来します。あなた自身が学校の授業や課外活動を通して様々な教科・分野・フィールドワークを経験し、その世界に身を浸し、アンテナの感度を高めていくと、探究の種（問い）が見つかります。探究は、自分が興味のあることを突き詰める側面も

あれば、世界の人々を豊かにするために行われる側面も持ち合わせているものです。こういう話に興味がある、こういうことに疑問を抱いた、こういうところが気になる。そうしたものを掘り下げ、磨き上げ、この大学ならそれが達成できそうだという見通しを立て、大学生活での学びの計画を立ててみましょう。

「今やるべきことは何か」

①大学の役割や大学で学べることを大学のHPや雑誌を使って探っていく。 **【情報収集】**

②大学を卒業してから社会の一員になるために、他者や社会に対して自分が「やるべきこと」は何かを考える。 **【課題設定】**

③「自分がやるべきことは何か」を設定し「どの分野の知見であれば、解決できるのか」を考える。 **【検証・整理・分析】**

④「自分がやるべきこと」を考える中で「自分が本当にやりたいこと」を考える。 **【まとめ・表現】**
です。

私達は日々の生活の中で、多くの問題や課題を抱えています。日々の学校生活や授業の中で、様々な問題・課題を見つけ、他の人と共有し合い、それを解決する方法を探ってみてください。**実際に自分で体験すること、経験することが重要です。**多くの体験や学びを通して自分の価値観や視野・視点を広げてください。狭い世界に囚われることなく、自分の可能性を信じて行動してみてください。世界の広さを知ること、自身の未熟さを知り謙虚さを得ることが出来ます。未熟さと謙虚さは、学びの質や機会を飛躍的に向上させてくれます。その過程で自分のやりたいことや学びたいことがぼんやりと見えてきます。



【微分的思考・積分的思考】

- ・局所的に物事を捉える（微分的思考）
- ・大局的に物事を捉える（積分的思考）

この2つの視点から物事を同時に捉えることが大切になってきます。言い換えると、局所的とは「当事者としての立場＝内側から物事を捉えること」。大局的とは「第三者の立場＝外側から物事を捉えること」です。

例を挙げると、

スポーツでは 選手＝局所、監督＝大局
 数 学では 平面＝局所、空間＝大局
 計算＝局所、道筋＝大局
 経 済では ミクロ＝局所、マクロ＝大局



などがあります。

学校での部活動や委員会で考えてみましょう。中学校の頃を思い出してみてください。「3年生という責任ある立場になってから、運営方針の決定や顧問との連携、後輩の指導など多くの要素を考慮した上で、自分のこともやらなければいけなくて大変だ。」という思いをしたことはありませんか。これは下級生（局所的立場）から、上級生（大局的立場）へと、年齢や学年の影響で移行することによって生じる現象です。これを意図的に行うこと、つまり立場を変えて思考することが、成長（キャリア発達）を促すことに繋がります。大学の教員ならばどのような学生を求めるか。経営者ならばどんな社員を採用したいかなど、日々の中で相手の立場になって考えることを心掛けてみてください。

物事を考慮する際には、「主観的・局所的」かつ「客観的・大局的」に物事を分析し、それぞれの立場や意見を理解し、本質を捉えていきましょう。これを繰り返すことで、大局的に見ていた物が局所的に捉えられ、更なる大局を見ることが可能になります。



【入試について学ぼう】

早稲田大学 新思考入試（地域連携型）

今回取り上げた新思考入試とは、グローバルな視野と高い志を持って、社会的・文化的・学術的に地域へ貢献する意識を持った学生を求める入試制度です。

すべての都道府県からの受け入れを目標とし、入学後は所属学部の学びに加え「**地域への貢献**」をテーマとした全学共通の活動を行うことで、当入試出願に至った志を入学後の学びにつなげる「**高大接続**」型の入試制度です。2024年度入試からは「**地域探究・貢献入試**」と名称変更する予定です。試験内容は第1次選考が書類選考、第2次選考が総合試験、最終選考が大学入学共通テストになっています。

早稲田大学 新思考入試

地域連携型
 最終選考は共通テスト3教科の8割以上で全合格
 地方出身者向け「めざせ!」部の西北奨学金も申請を
 早稲田大学入学センター

学部学科 法学部、商学部、文化構想学部、文学部、人間科学部、スポーツ科学部 計6学部
 各学部 若干名
 実施日程 2022年 9月1日(水)～9月15日(木)
 1次選考 書類審査
 2次選考 総合試験(筆記)
 3次選考 大学入学共通テスト
 詳細は「早稲田大学 新思考入試(地域連携型)入試要項」をご確認ください。2次選考の過去問題を公開中。
 早稲田大学 早稲田大学入学センター
 WASEDA University



【オンラインオープンキャンパスを利用しよう】

各大学はオンラインによるオープンキャンパスを開催しています。

東京大学柏キャンパスは、東京大学の三極構造のなかで学問体系の根本的な組み替えをも視野に入れた「**知の冒険**」を志向する最先端キャンパスとして設置され、新領域創成科学研究科、物性研究所、宇宙線研究所、大気海洋研究所、カブリ数物連携宇宙研究機構、空間情報科学研究センター、環境安全研究センター柏支所、情報基盤センター、高齢社会総合研究機構、生産技術研究所千葉実験所、柏図書館などが活動しています。開催期間は10月21日（金）～28日（金）です。また、東北大学も大学のホームページでオンラインオープンキャンパスを開催しています。興味のある人は是非とも参加してみてください。

オンライン開催 10月22日(土)

13:00-13:40
 情報理工学系研究科・教授
 情報基盤センターデータ科学研究部門・教授
 鈴木 豊太郎
 「人工知能の最先端研究に迫る
 ～大規模グラフニューラルネットワークの世界へ」

13:40-14:20
 宇宙線研究所 宇宙基礎物理学研究部門・教授
 田崎 真行
 「重力波検出器KAGRAと重力波観測の最前線」

14:20-15:00
 カブリ数物連携宇宙研究機構 機構長
 大塚 博司
 「重力とは何か」

「知の冒険へ」
 オンライン開催
 お子様から大人まで楽しめる!
 東京大学柏キャンパス
一般公開
 2022
 10.21日～28日
 東北大学